

昭和14年9月1日（金）

有料小包調査報告表発送、線引きに半日を費やせり。興亜奉公日第一回目、貯金年金等の受入れに一時間の延伸をなす。昨夜悪夢、此日鶴市神社例祭、太鼓台拾数ヶ市内を練り廻し、神輿を最後とし頗る賑やかなり。夕方巖飯を後にて、小母車に赤子を入れ戸外に遊ぶ。余飯を終え、赤子を其の儘、神社に詣でし循環路を採り返る。此夜巖にラジオにて今日子供の教育に就き、一旦危険と認め禁止したるものに対し、仮令ば食物の如き強いて摂取せんとする場合、夫れを取除くことが親の慈悲なりとする説に、感謝せりとの例を挙げて、和博の我が伧を矯正せしむる方法を以てす。巖も苦慮し居る事実を、此の時始めて知れり。然し一度遣り出せしことを、中途停止するが如き弊に付き、再考を求め置けり。

昭和14年9月2日（土）

此の朝、大工人を換え棟梁某を訪ひたるらし。飯を済まして外出せり。少時して来たり。此日後刻、局に伺ふ旨咄す。八時半出局。九時過ぎ例の大工来たり、色々相談す。是永氏の意見は三人にて遣ろうとのことらし。余には何とも正式に謂はず。仍って余より是永氏に、此の際給料の増加により一体となり仕事に当たる方法を採用ことに同意ならば、余も増員見合わすべしと云ふ。此日奥さん切手請求。年金、一孝氏を定期百二十円に契約す。九月一日より拾二円を三十円に引上げられ、一口三百円以上を必要とすることとなれり。余は契約を中止するの不得止に至れり。正午報告物調査表送付、直に作製発送せり。大工は明日来らざるに付き、余は福岡に還ることにせり。五時飯福。髯剃り、柳原先生かかり行く。夕飯

なしとのことにて、何か注文するとのことなりしも、辞して其の儘出発。八時二十分到着。会集木戸氏と鉄道職員の若者と余の三名きり。恰も静座中、先生の末子疫痢の診断を受け心配されし旨、及び青梅を磨り日光に乾燥し、飴の如く粘着するを莢とし瓶に蓄え置き、之を与ふる時は病勢好転するに由ありとて、其の品物を一箸つつ舐めらしめらる。十一時閉会。今日のニュースをラジオに聞き、十一時四十分頃帰宅。十八日頃の月、皎々と中天に懸かり、涼風肌に適す。先生停留所まで送り来らる、恐縮せり。既に床展べあり。何日もなら水浴するを常とするが、此日は先生の奥さんも看病疲れにて臥床の由にて、茶の接待を欠き汗出です。而して咄は欧州問題、時事問題に終わる。十二時近く寝る。夕方夕立あり、通り湿す程度。

昭和14年9月3日（日）

久方振りにて久子起上がり、道子等外出の後より外出。午後三時頃道子等帰宅。活動に行きしものか、小鯛20銭求め来る。余、頭每摺り鉢にて摺り潰し、団子に揚げ、更に煮て夕食に上ぼす。久子の同僚より病氣見舞品届けらる。久子其れを持来る。卑しくも幾つか食前に余、馳走に預かる。夫れ等が原因し、停滞胃底、齒金冠脱落、奥左上方。此の日号外、明朝一時宣戦布告の由。久子今日より出勤、夜遅く帰宅。

昭和14年9月4日（月）

此朝ジョージ六世の、神よ親愛なる吾が国民を守らせ給ひの、ラジオ演説の録音あり。今朝一時より戦時状態に入りたる趣にて、欧州の天地暗澹たり。久子十時頃出勤。

岩本キミヨ氏より昨葉書あり。此朝返事書く。目下唐津に
来たり居る由。北風可なり強く部屋に入る。外出せず。
夜水浴せんとしたるに、隣家の娘さん来たり、話尽きず。

昭和14年9月5日（火）

天気は不変。焚き火して雨を祈るも、一向利き目なきも
ものの如し。午後より剃刀研ぐ。久子遅出。理髪丸坊主に
なる・・・

大戦に対する戦費、邦貨換算、イギリス85億円、フラン
ス69億円。欧州大戦の戦費、イギリス728億6877万円、
独乙666, 0563万円、フランス609, 1860、ロシヤ55
8, 2965、イタリア170, 3457、オーストリア343, 64
72、アメリカ459, 2141（三年後参加）。

日露戦役我が将兵一人一日あたりは3, 30、
イギリス國富の4, 7、ドイツ4, 5、フランス国富の5割6
分、ロシヤ国富の4, 5

一人一日の参戦費、イギリス27, 60、ドイツ9, 90、フ
ランス18, 70、ロシヤ11, 40、イタリア10, 70、オー
ストリア11, 80、アメリカ63, 80

昭和14年9月6日（水）

三時起床。鰯団子残七ヶ程あり、夫れを携行。久子より
菓子類調達・・・夫れをも椎の帯。五時二十分発。汽
車既に到着しあり。新聞紙6銭求め、最後のボックスに
乗る。今日まで襯衣薄物を着用しあるを、絹紬（つむぎ）
のものにせり。永江氏母堂のみ転宅するとかにて室内混
雑し居れり。永江氏援助の為め、局務を取らず休暇。貳
円九四保険費分け分配に預かる。小倉駐在工員来、二

十日事務開始と云ふ。曩に大分工務出張所経由を記入せしも、小倉正当と初めて認識せり。五時退局。野口氏一時間遅る。鰯団子、午餐時野口氏にやり、是永氏にも又永江氏にも風味して貰ふ。久子よりの菓子に愛子に贈る。

昭和14年9月7日（木）

電信電話篇等一行、曩到着に付き背表紙作製。巖申込書八枚寄越す。余の不在中も八枚発送せる由。五時戻る。猶背表紙の製本一部を剰したり。

昭和14年9月8日（金）

朝出勤時、風呂屋の表、理髪屋にて髯剃り20。此日午前九時より筑紫亭に於いて局長会議開催。次いで上津局長新任披露あり。鶴居長挨拶。此日、余背表紙の綴込みを了して出発せし為一時間遅参す。一つ松局外一局不参、一つ松は子供病氣、別府に行ける由。三時帰局、菓子折り局員に振舞う。宴席にて土産品として、風呂敷と共に各自持販らしめたるもの。局に至れば折柄請求したる拾銭印紙百枚、連続の中途より截断しあり。其の一部見当たらずと云ふ。本局と交渉し居れり。余截断面を庶務部に参考の為提示せよと命じ、電話にて其の旨通知す。中津局当務者、持参せぬともよしと云ふ。余電話にかかり不深切を鳴らして、見て呉れぬ理由を詰問す。對手も腰折れ、持来たれと云ふ。野口氏に届けしむ。行違いに切手類を挿入の紙袋を検するに、残片附着しあり。是永氏を遣わし引還さしむ。是永氏局まで赴き、野口氏と会し、呈示印紙を受取り販局。野口氏は其の俣販宅。中尾氏来翰。

昭和14年9月9日（土）

電話を貯金係に掛け、竹折主事の意見を聞いて、明日の婦人団体と無集配局長等45名の招待会に、永江氏を代理せしめる諒解を得て落着。規格？課より図面返戻しありて、工事申請者と共に小倉工務出張所経由提出方通牒に依り、大急ぎ作製発送方を永江氏に委任せり。午後一時二十分発、十五分遅れにて発車。途中驟雨、駅にても猶降られ、バスに乗り簗島終点に到れば、道子和傘にて迎えに来たり居る。水浴、夕飯後髯剃り七時半出発。柳原先生、栗原氏あり。暫くして桑原氏来たり、森氏来らる。十一時過ぎ閉会。一丁目にて柳原先生を電車に送り、桑原氏に別れて十二時帰宅。水浴、十二時半寢床。雨は帰宅時霽れる。

昭和14年9月10日（日）

早天托鉢取止め。天気予報は朝の間降雨とありしも、晴天となる。午後より外出、松屋にて各種菓子類2、11、送料45、中尾氏宛発送。インク壺円、14オンス求む。安封筒100枚10銭求め、四時を過ぎ帰宅す。夜竹野より速達葉書にて、今夜十一時四十五分発下り夜行、熊本人吉都城経由青島に、十二日延岡を見学、同日夜行帰局の予定。本日五時博多著、猶数時間の余裕あり、立寄るとのこと。道子はバス停留所に行き、澄子果物を求むる為、何れも外出。余階下を掃除して待つ。果たして来る。道子と行違いになる。澄子をして道子を引戻さしむ。十一時二十分まで咄す。光誌6、7、8三部与ふ。まこと、光友等各一部頒与す。道子バス停留所まで、余電停所まで送る。

昭和14年9月11日（月）

午前中手紙書き、十一時三十分保険局に行く。上の橋にて柳原夫人と会す。出征部隊見送り列に加わり居る。五六十名出征す。0時10分福祉係に行き係長に面会、相談所問題を切り出す。去る金曜日に、余に代表として出向方決議に至り、販りにいちじく20銭14ヶ求めたり。土地問題に関し、曩に梶沼氏に催促したるに、九日同氏より来答。七月中旬以来、群馬、北海道、会津地方に旅行、三十五日振りにて帰宅匆匆、娘婿の中支出征の為、混雑して今解決、遷引きの旨なり。

昭和14年9月12日（火）

此の朝、飯前三十分間散歩。山崎清五郎氏、十一日午前二時五十分帰光の通知あり。嗣子久夫とは大学に明年卒業の息子なるべし。光井誠とあるは長女の婿なるべし。弟に精一、正治郎の二名あり。葬儀は十五日午後四時、辻堂町承天寺にて執行とあり。明日中津行きを見合わす。道子等外出、十時から午後四時。南洋の広瀬氏より蜥蜴缶に入れて送付越せり。鞆（なめ）すに容易ならず。読書新聞社に日本外史、外二冊注文。夕食前散歩、九時寢床。

昭和14年9月13日（水）

朝五時三十分から六時二十分、高宮まで散歩。濠に沿うて直線コースを採れば達す。朝食後左上奥歯折損の部分、殆ど自然に脱落。光誌読了。無窮誌を読み、蚊に食はるる儘、蚊帳吊り仮寝せしが、阿部内閣の改綱の説明を聴きつつ不知不識寝る。九時半ラジオ止めたる。

昭和14年9月14日（木）

朝体操を済まして、五時四十分より散歩。竹下まで行き帰れば六時三十分。朝の行事三十分、修養講話四回目、今泉定助氏の国体に関する説明を漏れなく聴取。向上誌読了。

昭和14年9月15日（金）

朝東領より簗島橋通りを比恵に出づ。途中建物の形態より観て逋信省式と思ひ、折柄新聞配達小僧に尋ねたるに、電話局なるよし。何もなき単独建物とて淋しそうなり。ぽつんと一軒建てられありて、周囲には全然家屋なし。六時三十分帰宅。行事三十分、次いで今泉氏の講演は全く氏独特のもの、多くの学者を相手に侃々諤々（かんかんがくがく）の論、寔（まこと）に傾聴に値す。午後三時、紋付き羽織に香奠一円持参、バス及び電車にて辻堂下車。承天寺禪宗の頗る大伽藍、受付けには椅子数脚を配置、下足数人、左室は一般人詰め所、右へ親戚故薦の人々、殆ど立錫の余地なきまで立罩（こ）む。畢竟故人の余徳と称すべし。四時開始、楞嚴?を誦す。弔詞赤十字社地方部長より各方面に渉り数名、一燭園桑原氏、光友として柳原先生、共に出色の観あり。式終了を告げたるは正五時、前後を通じて一時間。桑原氏下足の世話さる。星野先生モーニングにて余の傍らに来らる。柳原先生、会葬者に御礼として、電車券十区づつ配り方を受持たる。雨降り初む。急いで電車に乗り、バス待つ間店先を塞ぐ。終点に到着する頃、雨上がる。夜に至り多少降る。道子胃腸を害ねたらし。九時寢床。柳原先生より、明日の郷の集いに出席方葉書あり。山崎氏葬儀に際しても、奥さん参列せられたり。電車券貫ひし十区の

半分を澄子に頒与す。

昭和14年9月16日（土）

昨日来の降雨にて道路湿潤、歩行に好適、五時三十分薄明なるも出発。塩原橋を渉り筑紫中学に出づ。此の辺の道路は舗装されあり。九鉄大橋を望みて六時十分急ぎ引返す。中学の前に道祖神を祭る祠（ほこら）あり。路辺に幾十旒の小旗の翻飜（へんぽん）たるを看る。帰着六時四十分。行事に三十分を要し、修養講話十分聴き洩らす。今日にて終了。十時頃より降雨、此の分では相当降るらし。気温も降下せり。午後七時二十分、星影消ゆ。雨具を持たず出発す。一丁目にて高等学校行き赤色標示に、次の電車まで待つ。然るに次のは入庫、更に三番目電車の到着まで、彼れ此れ五六分、まことの郷に到着せしは八時二分。栗原氏独り、姑（しばら）くして銀行に出勤の某青年見ゆ。御寺のこと良く知り居らるるを見れば、寺院育ちかとも思はる。朝の修養に今泉定介氏の日本国体論に就いて批判を乞ふ。此の次の会合より、日本精神の講話を数回に渉り演出の筈。十一時過ぎ閉会。先に到着時、降雨ありしも甚だしからず。帰るさ快霽、十二時帰宅。漸く天候険悪の兆しあり。水浴、零時二十分就床。此日降りみ降らずみ、梅雨時の空模様に髣髴たり。

昭和14年9月17日（日）

四時起床、五時二十分出発、竹下に行く。森永製菓工場前にて引返し、日本足袋前に来たりし頃驟雨。松居博多織工場前より本降り、着衣を濡らし頭より水浸しの態。六時三十分帰宅。久子早出。間もなく雨歇む。十時頃より又降り初む。歇んだり降ったり为天候、前日と変わりなし。

午後二時多少小降りとなれる機会に、澄子より50銭を借り、南支展を玉屋に観るべく出発。人物は人形と油絵とを背景とし、猶写真を添え、各方面の援助に依り可なり多く蒐集されあり。一度は見る価値あり。坪屋の最中は曩に竹野より頂き、流石に名物たるに愧ぢずと思料。50銭分（4個10銭）求め、駅まで雨を冒し、同駅前より電車に乗り更にバスにて帰着す。四時二十分夕飯。染色移り紫色に変すオートミルをも頂く。六時頃より雨上がり、髯剃り。久子夕方帰る。道子飯食はずオートミル食す。九時半就床。

昭和14年9月18日（月）

晴れ、白玉粉団子を頂き、五時二十分出発。例に依り、駅にて新聞を求めたり。堆積の仕事を片付く。野口氏、既に修習を終わりとるものと思料し居たるに、猶中津局に出頭し居れり。大工も来て呉れたるものと思料しありたるに、未完成の儘となり居たり。手違えの点、予想に反するものあり。携行の最中、土産として振舞ふ。為替にて百円不足すと云ふ。過超金に相違ありと見て、中津局に電話せしも、後刻相違せずとの回答あり。余は五時半頃飯る。恰度愛子赤坊に湯浴みして居る。急ぎ着物を換え手伝ふ。野口氏中津局より一旦飯局、郵便を手伝ふ。偶々百円不突合い事故に逢着、解決まで居て、六時半頃飯宅。百円は抽出の奥に発見せりと云ふ。此日百円紙幣参枚受入れたるに、一枚も支払へたる形跡なきに、一枚不足するに気が付かざりしものの如し。夕飯後、赤児を小母車に乗せ外出。例の如し、巖飯宅遅し。

昭和14年9月19日（火）

此の日豊田小学校運動会。永江氏午前中より休暇。子供の成績を観る、今年も四等に入選せし由。隣家のおばさん三等に入りしと見たるに、強く主張せざりし為、四等になりし旨弁護す。永江氏二時飯宅。子供は五時頃飯る。昨巖の斡旋に依り、角木より老大工約束、其の者朝の間来局。模様換えの場所指摘、明朝より着手方依頼す。小倉工線課工員臨局に付き、明日取附け出来る様、工事進捗の筈なる旨通知す。永江氏休暇の為、野口氏常務執行、飯宅すれば巖飯って居る。大工明朝来たり呉る越しを通告、感謝す。夕飯後の外出例の如し。

昭和14年9月20日（水）

夜来より降雨。巖、集金所会議を大分市公会堂にて開催の越しにて八時出発。余も間もなく長靴にて和傘持参。ラジオ昨日よりツマミ部分障碍断線の為、雨を冒して中井のラジオ店に行き、歯車の部分を取換ふるときは参円を要すと云ふ。別に開閉器を取り付けて60銭を付せり。昨日約束の大工不来、頗る当惑せり。折柄見習終了の野口氏来たり。中津局長より、駅前一局工事未完成の為、開通遅れ居るとの苦情か注意かがありたる由。隣家の電話にて木内氏を呼出し事情を質す。東吉富も未完成とあり、多分報告すべき竣工が促進せざるものなるべし。電話機の設置は一つ松と前後し出来上がりたるらしきも、工事（ボックス）に着手せざるらし。成るべく早く工事を竣工せしめられたき旨通知あり。事情を通告、諒解を求め置きたり。栄町局長に依頼、同氏の知り居る指物大工を遣わし貰ふ。大工来たり、明朝臨局を約す。再び違約するか否かは知らねど、彼の承認を得て安堵せり。村上

局長が余の責任に属する事項を事務員に通告せしことは解し難きも、未完成の責任に対しては恐縮の外なし。販宅、夕飯前巖を迎え、傍らに赤坊連れ出掛け、鷹匠町より其の附近を経由、販れば巖販り居る。総務部長渡辺雄治氏と一緒に中津に来たり、緑屋に泊まり、金谷の同氏親戚を案内して販宅せりと云ふ。余の局より先刻販宅せし際、悦子が泥溝に溜り、裸体にして洗ひ呉るる間に、余は赤坊を連れ車に油差して出掛けたるなり。巖より玩具小形がら、軍艦積み木細工等の外、饅頭を土産に持来る。子供就寝後、其の菓子余に薦む。余食わず。中尾氏来翰。巖より今日の会議の模様など聞く裡に、九時四十分となり、新聞一頁をも読み得ざりし。雨三時頃より歇む。

昭和14年9月21日（木）

朝冷氣、晴天。此の朝便所にマッチ消費補充を忘れ居りしも、蚊の襲撃なかりし。出局すれば角木の吉田と云ふ大工、昨日不来せしも此の日来る。既に栄町局長を通じ依頼したるを以て、一応栄町局に本日来否を確かめ、角木の大工を断る。間もなく栄町大工来たり、工事に着手。野口氏栄町局に出張見学。大工二時頃一先ず販れり。夕食後外出、前例の如し。

昭和14年9月22日（金）

此の日より野口氏平常通り執務。永江氏三時頃より早引き、自動車にて何地へか外出。午後五時五十分頃販る。野口氏、余より一足先に販り、途中買物して居る間に、余の方早く販宅す。風呂沸き夕食を済ますと同時に入浴、両児を入れたり。流汗淋漓容易に止まらず。少し冷気を

覚ゆるまで裸体にて居る。外出を見合わす。寝る前、再び入浴す。

昭和14年9月23日（土）

朝工員来たり、直に電話機設置する由を通告す。厚板を打附けねばならず電話にて栄町に通告、大工の来局を求め竣成して販る。一時間後、工員来たり電話機の設置を了す。保安器をも異動して貰ふ。かくて一先ず通話し得る状態となる。午後一時二十分出発、五時帰着。此の朝新聞見る暇なかりし。赤坊に朝飯を与え、膝に抱きなどして居る間に八時を過ぎたればなり。

・棚橋絢子（あやこ）刀自（とじ）八十六日以来風邪にて、本郷丸山新町17の自邸にて病臥中、肺炎を併発、二十一日午後三時十五分死去、享年百一。刀自は東京高等女学校名誉校長

昭和14年9月24日（日）

逋信購買組合福岡支部より、購買利用申込書の交付を岸田庶務長に申込みありし処、送付越さしめたる為、本日発送。朝例により四時起床。清水橋より清水町を経て六時半帰宅。朝可なり冷ゆ、浴衣にては寒し。新聞二日不閲覧す。住吉町1245山崎久夫氏より、同氏亡父の遺志に従ひ、教化団体に香奠は寄贈の旨通知あり。久子朝早く行き、人繰り都合か、遅出同様夜になりても販らず。彼岸の中日、白玉団子を造りて仏前にテンプラと共に供し、燭を点し香を焚く。夜食は団子のみ頂く。此の朝腹加減異状あり。薯を食べ鰯と鯖を詰込む罰、覲面。団子にて調和を取る。手紙書きかけて中止。夜は割合早く就寝。階下此日より蚊帳を廃す。

昭和14年9月25日（月）

昨朝二時頃降雨、間もなく歇みし。今朝同時刻、降雨一時間余続きたる如し。三時四十分頃起床、腹が減り良、竹下に散歩。飴会社所在、東光寺橋際まで行き、農学校前より鉄道線路伝いに販宅。蒲団陽に乾す。蒲団袋に入れたるもの、虫の浸蝕甚だし。明年より収納??に注意を要すと認めたり。洋服ブロックも虫数匹居り、大穴を穿ちあるを見る。こんなことを気にするようでは死切りの生活は期し難し。矢張り凡夫の浅ましきと思ひぬ。年金澄子に受取らしめ、一円五十銭返戻す。鰯20求め来たりたるを以て、身は別に摺り、頭と骨と一緒に摺り潰す。二時間程費やす。久子給料月給28円になる辞令見せる。今朝はセル着用。向かいの家に新しき借家人移り来たり、此日挨拶に来る。前に居りし人は、足袋会社附近の田圃の中の一軒屋に移りしらし。今度其の跡に来たりし人は、未亡人にて、長男中学、長女家に、二女小学校を通学の模様。此の夜階下蚊帳吊る、蚊が相当多く出たらし。夜葡萄一房、澄子持来たり余に振舞ふ。家主の遣わせし大工来たり、雨戸の締まり悪きことを説明す。

昭和14年9月26日（火）

今日は早朝雨降らず。五時半例の通り出発。高宮に出て松屋の寄宿舍を覗きて、二十分にて帰着。午前十一時、額縁求めの為出掛く。久子昇給したる為、余に一円呉れたる由にて、道子より金を遣わす。之を受けて川端町に至り、曩に1, 20のものが1, 35に上昇し、1, 25に負けて貰ふて三枚購入、一時に帰宅。下帯洗濯す。此日出発途中、簗島橋にて降雨に遭ふ。雨宿り十分、時にして

霽れたり。夕食後澄子に理髪し貰ふ。市内に行く際、簡単に髻剃る、更に販りて剃り直す。夜葡萄20、梨子頂く。

昭和14年9月27日（水）

三時起床、四時二十分朝食。鯛団子自ら容器に入れて、ハンカチに包み野口氏の弁当の御副食に携ふこととす。額縁の嵩ばりたると可なり厄介視す。然るに該額縁は、縦一寸程前のより狭小せりし。此の日指物大工来たり、電話室完成。次いで硝子屋も来たり、曩に測定分丈け嵌込み、其の他の部分は明日更に来局を約して去る。大工の方は午前中に片付く。火鉢の縁も作って貰ふ。是永氏に来たる一日、福岡行きを慫慂す。氏当日、所用の旨を以て辞退し来る。然るに当日は興亜奉公日、商店休業、連れて行くも詮なしと認めたり。

昭和14年9月28日（木）

天気予報は曇り後雨、和傘持参。南部小学校運動会は雨中に決行、三時頃歇む。指物師来たり、十八円請求す。扉一枚八円となり居る。次いで硝子屋来たり、1, 70支払ふ。五時姫野先生見え、少時咄して去らる。富士紡に来られたる由。夕飯後外出、風呂に入り両児を入れる。雨は十一時頃降り初む。申込書発送。

昭和14年9月29日（金）

時計の鐘鳴り、一時間多く掃く。五時に起床したるに、実際は四時なりし。其の為、野口氏を一時間早く起こす。後気が付き気の毒に不堪りし。此日巖よりの申込書四枚、発送を洩らしたる分本日発送。野口氏切手請求の序でに、余の葉書、明日帰福通知の分と申込書と一緒に投函、依

頼す。一つ松のみ来月六日開始の模様。ペンキ屋明日来局を永江氏に煩わす。夕食後四十分間程外出、保険料2, 10帰りがけ永江氏に交付す。明日受入方委託す。浴衣一枚にては少々寒くなる。

昭和14年9月30日（土）

ペンキ屋来たり、目標も請負はせたり。巖にラジオ修理料50銭返戻し方、野口氏に頼む。昇給発表、永江氏二円、他は5銭づつ辞令を交付調印。午後一時保険経費、永江氏1, 50、余1, 41頒配、出発。五時帰宅。此夜寒きこと甚だし。阿蘇降霜、二十日早しと後にて知りたり。寝巻を着る。余の葉書十時頃配達。朝飯は当て嵌めて炊きたる為、白玉団子作り甘藷食す。